



4月

## 今月の江戸しぐさ「お心肥し」

「おしんこやし」は人生でおこることは全て無駄なことは無く、心がけ次第で心の肥しとなり、人として成長すべしという教えです。

だれでも、一生平穏な人生を望むものですが、実は平穏な人生は人としての成長を則しません。

人生はさまざまなトラブル、挫折がつきものですが、人のせいによらず、それを克服していくことによって、脳の神経細胞に新たな回路が形成され、思考範囲が広く深くなり、人として成熟していきます。

積極的に克服できない場合は脳の扁桃体や視床下部が傷つき、萎縮してうつ傾向になってしまうことがあるので注意しましょう。

克服するキーワードは以前にでてきた、「陽に生きる」「うかつ謝り」「夜明けの行灯」が用意されています。参考にしてください。

病院は人と関わることの多い仕事ですので、さまざまなトラブルが起こりやすい職場です。しかし、トラブルや挫折こそ人として成長し、仕事のプロフェッショナルになる呼び水となるものです。大切にしてください。

また芸術、歴史認識の深い解釈等も心の肥やしとなるものです。

※江戸思草は、江戸時代の町民が良いとされること、悪いとされることなどの生活の規範としていたものです。

判断の基準は粹かどうかだったようです。

粹の概念は武士の武士道に対抗するものだったという説があります。他の国にない、一般庶民の高度な精神性が、当時日本に来た外国人に驚きをあたえていたことが多数記録されています。



家族の雨傘

ヘレン・ハイド

Helen Hyde(1868~1919)

日本を愛したアメリカ人版画家。

江戸の風情が強く残っていた明治期に10年以上滞在し、女性の視点から愛らしい子供の作品をたくさん残してくれました。

当時の外国の観察者の多くが、西洋諸国と子供の様子や子育ての考え方が根本的に異なっていることに驚いていました。

